

## 米原を行き交った鎌倉武士

### 米原市の歴史的特性「巷（ちまた）」

「巷」という言葉は人が集まる賑やかな場所、そこから道が分かれる場所を指します。米原市には、古代から重要な道が通り、江戸時代に中山道・北国街道・北国脇往還に整備され、6つもの宿場が置かれました。さらに、湖上交通の拠点でもありました。このほかにも重要地点を結ぶ古道が、市内には縦横に張り巡らされていました。

古くから、京都から、東海・北陸方面へ往來する主要な方法として、大津から琵琶湖を船で渡って朝妻湊に上陸して米原市内を通るルートが利用されました。湊と中山道醒井を結ぶ古道が朝妻街道です。米原市箕浦は、鎌倉時代の東山道（のちの中山道）と北陸道の分岐点で、さらに「千石道」を通じて大原地域とつながり、朝妻湊を経由する物資の集積地として、市場があり大いに栄えました。

今年のNHK大河ドラマは『鎌倉殿の13人』です。米原には、鎌倉幕府成立前後に活躍した武将たちが足跡を残しています。平治の乱（1159年）で平清盛に敗れた源義朝親子は、近江路を東国に落ちていきます。すでに不破関は平家方に固められていたため、彦根市鳥居本から街道を左に大きく迂回して、藤川から関ヶ原町小関に抜けるルートを選択します。おそらく、箕浦から北陸道を北上し、長浜道で春照を經由したと考えられます。12月の伊吹山麓。寒風が肌を裂き、雪が道を埋め、困難を極め、やがて11歳の源頼朝は一行とはぐれ、草野谷に迷い込んで

しまいます。

寿永2年（1183）、平家を都から追い落としたのは木曾義仲です。攻め上る途中に浜街道を通り、日本武尊を祀る磯山に詣でました。このとき鎧を掛けたのが「鎧掛岩」です。磯山には、翌年義仲を粟津で討ち果たした武蔵坊弁慶の手形がある「弁慶岩」もあります。武将たちの息づかいが湖岸に残ります。

建久元年（1190）、源頼朝は都で後白河法皇と後鳥羽天皇に謁見し、帰路に箕浦庄に宿泊しています。箕浦の八幡神社には、このとき頼朝が腰かけた石があります。一説には、この3年前に失意のまま奥州平泉へ落ちのびた源義経が腰かけたともいわれています。3メートル足らずの石に、時代に翻弄された兄弟の悲喜こもごもの人生が映し出されているようです。京から東国へ、いつの時代も人々が通過した米原なのです。（高橋順之）



源頼朝の腰掛石（米原市箕浦八幡神社）

### 情報BOX

◆米原市教育委員会では下記の報告書を刊行します。

『柏原宿萬留帳調査報告書5～7巻

近江国中山道柏原宿三〇〇年の蓄積』

『長比城跡・須川山砦跡総合調査報告書』

※国史跡指定に向けた測量・発掘・文献調査成果

『史跡清滝寺京極家墓所保存活用計画』

「後鳥羽上皇伝説マップ」

◎問合せは、米原市生涯学習課まで。

◆伊吹山文化資料館では下記の冊子・パンフレットを刊行します。

『伊吹山文化資料館年報23 令和2年度の活動』

「醒井宿歴史マップ」「太鼓踊見どころマップ」

◆米原市大久保在住の松井俊正氏が下記の地域誌を刊行されました。

『行く川の流れ in Okubo 大久保の歴史を追って』

◎問合せは伊吹山文化資料館（☎0749-58-0252）まで。

### ◆◆編集後記◆◆

佐加太51号をお届けします。旧町時代からご指導いただいている用田さんに御寄稿いただきました。感謝です。現在米原市では「文化財保存活用地域計画」策定に取り組んでいます。米原市の歴史的特性は琵琶湖を育む水「水源の里」と東西日本の接点に位置し、街道・峠道・舟運がもたらした「巷（ちまた）」のにぎわいで、鎌倉武士だけでなく古代中世多くの旅人が行き交いました。長比城も「巷」をまもる境目の城です。「水」と「巷」でまとめてみました（扇之舞）



東国へ落ちる源義朝一行

米原市文化財ニュース

## 佐加太 第51号

発行 令和4年3月1日

編集 米原市教育委員会

〒521-8501 滋賀県米原市米原 1016

米原市生涯学習課（歴史文化財担当）

TEL0749 (53) 5154



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました

第51号

2022年3月1日

滋賀県米原市教育委員会

## 長比城跡発掘調査速報

滋賀県米原市と岐阜県関ヶ原町にまたがる野瀬山の山上に長比（たけくらべ）城跡（米原市柏原・長久寺）と須川山砦跡（米原市須川）の二つの城跡があります。長比城は元亀元年（1570）の織田信長の近江侵攻に備えるため、浅井長政によって築城されました。『信長公記』という記録に、「去程に、浅井備前越前衆を呼越し、たけくらへ・かりやす両所に要害を構え候」とあることから、越前朝倉氏の力を借りて、長比城・新安城（上平寺城）を築城したことが分かります。しかし、守備していた堀秀村・樋口直房が信長軍に内応したことにより、両城はあっけなく開城しました。開城後は信長がこの長比城に一両日留まったことが『信長公記』に記されています。米原市では長比城跡・須川山砦跡の保存と将来的な活用を目的として国史跡指定を目指しており、令和元年度から3か年計画で調査を進めています。令和元年度はその二城跡の測量調査を実施し、昨年度（令和2年度）は須川山砦跡の発掘調査を実施しました。須川山砦は文献記録がないことから、麓にある遠藤氏の館とセット関係にある城とする説もありましたが、発掘調査および測量調査の結果、建物遺構の検出および遺物の出土がなかったこと、長比城西曲輪と同じ縄張り構造を有することから、長比城と一連の城である可能性もしくは同時期に築かれた可能性が高いとみられます。

そして、今年度（令和3年度）は、6月8日から

8月10日にかけて、長比城跡の発掘調査を実施しました。長比城跡は東曲輪と西曲輪の2つの曲輪で構成され、両曲輪の間には自然地形が残されていることから、近世軍学でいうところの「別城一郭」という形式が採用されています。両曲輪は同時に築城されたとみられますが、一方では西曲輪に先行して東曲輪が存在した可能性も指摘されていることから、東西曲輪の築城時期を確認するため、また東西曲輪の虎口構造、門などの建物遺構の有無を確認するために虎口部分を中心にトレンチを設定しました。調査の結果、建物遺構や土器などの遺物は見つかりませんでした。東曲輪南虎口の虎口内側部分において新たに土塁が検出されました。従来は、直進で曲輪に進入する虎口と考えられていましたが、この土塁の存在によりクランクして進入する内枘形状の虎口であることが判明し、従来、考えられてきた虎口よりも発達した虎口が採用されていることが明らかになりました。また、虎口部分の土塁の断ち割り調査により、自然地形を残しその上に土を盛って土塁が築かれていることが分かりました。このことにより、築城前に虎口の位置などの詳細な計画・設計（縄張り）がされ、その後で土木工事（普請）が行われたことが想定されます。加えて、虎口内の土塁の裾および虎口外側において切岸を検出したことにより、虎口内外の通路幅も確認することができました。

今回の調査により、浅井・朝倉氏の築城手法を考える上で大きな成果を得ることができたと考えています。（石田雄士）



長比城跡 西曲輪 完掘状況



長比城跡 東曲輪 完掘状況

# 琵琶湖水系の水利用しらべ —すべては泉神社湧水からはじまった—

神戸学院大学 用田 政晴

## 1. はじめに

1985年、当時の環境庁が全国の水環境を再発見してこれを広く紹介することを目的に、地域の湧水・河川・地下水・用水など水資源のうち、「保存状況が良好であり、地域住民等による保全活動があるもの」を「名水百選」として選んだ(環境庁1985)。

2008年には、「平成の名水百選」として地域住民等による保全活動が主体的で持続的であることをさらに求めた100件を選んだ(環境省2008)、それらあわせて200件の大半は湧水であった。

2012年には、環境省が「湧水に係る状況調査」を行い、全国都道府県別の「湧水把握件数」「代表的な湧水」「湧水保全活動実施状況」「湧水保全に関する条例」などを公表した(環境省2012)。

この調査結果を見ると、地域別の把握状況はかなり粗密があり、近畿地方だけでみても223件を数えた滋賀県以外の5府県はすべて100件以下であった。さらに滋賀県内でも米原市が200件で、それ以外の7市町あわせても23件であった。米原市は、当初から水環境の利用と保全に強い関心を持っていたことがわかる。

## 2. 水環境の機能追究

### (1) 環境省による湧水の機能

先の「平成の名水百選」の選定にあたっては、6つの基準があった。(1)水質・水量、(2)周辺環境の状況(周囲の生態系や保全のための配慮など)、(3)親水性・近づきやすさ(水への近づきやすさや安全性を重視)、(4)水利用の状況(水利用の伝統を含む)、(5)保全活動(保全活動の内容・効果を重視)、(6)その他の特徴・PRポイント(故事来歴や希少性など)である(環境省2008)。

また、2010年の「湧水保全・復活ガイドライン」

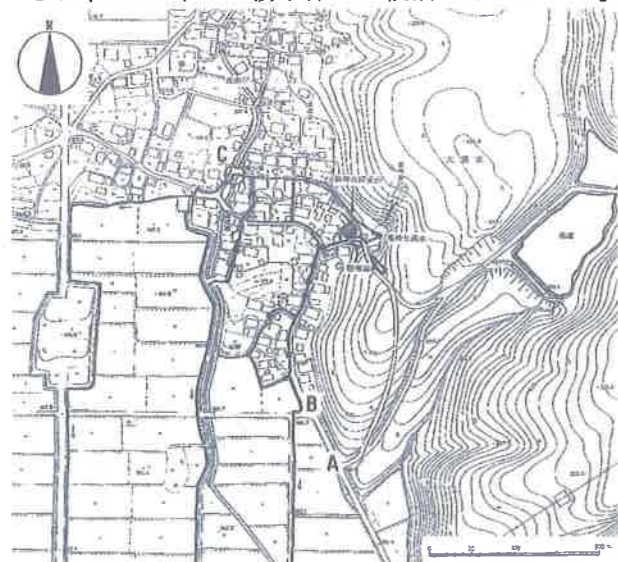


図1 泉神社湧水流域図

では、湧水調査の実施項目として6つの項目があった(環境省2010)。(1)地域概況調査、(2)湧水分布調査、(3)湧水量調査、(4)湧水水質調査、(5)湧水機構調査、(6)湧水周辺の生物調査で、先の2008年段階の湧水認識項目がさらに広がったものであった。

ここでは「湧水の多様な機能」として、水資源や水循環の健全性の指標、自然の豊かさのシンボル、観光・景観資源、快適な水辺環境を挙げ、具体的に湧水の用途として次の事柄をあげている。

「背後にある水循環系の健全性を知る身近でわかりやすい指標」、「湧水は生活・産業の場」、「用途は、水道水源、飲料用、生活用水、農業用水、消雪用水、地場産業(養魚、わさび田、豆腐、酒造り)、御神水、茶の湯」、「歴史・文化的な価値も高く」、「人々のコミュニケーションの場」、「自然とのふれあいの場」、「景観の構成要素として重要」、「湧水に依存する動植物の生息・生育の場」、「鳥類、両生類、陸上昆虫類の水場」の9項目であった。

### (2) 米原市の水環境とその役割

市内では、「名水百選」に泉神社湧水、「平成の名水百選」に居醒の清水、さらに「ため池百選」に三島池が選ばれ、それぞれ生活用水や灌漑用水として利用している。泉神社湧水は、御神水として広く飲用等に利用されていることはよく知られている。また、「居醒の清水」を源流とする地蔵川には絶滅危惧種であるトゲウオ科のハリヨが生息し、梅花藻が季節の風物詩として多くの観光客を集めている。三島池では、マガモの自然繁殖地南限として滋賀県の天然記念物に指定され、すぐ近くの天野川はゲンジボタル発生地として国の天然記念物指定地となっている。

広く米原市内を見渡すと、豊富な水を使った造り酒屋がかつては16軒あり、豆腐は今も3軒で作っている。真綿の産地でもあった岩脇地区や多和田地区では白噴する井戸水を利用していましたが、多和田地区



写真1 泉神社湧水池

では蘭むき川の水としても使っていた。さらに顔戸地区に湧き出る黒い水は、白い布を染めるのに用いられていた。

琵琶湖に近い入江内湖は、漁業と共に藻をとる採藻地として知られており、周辺田畑の肥料として藻は長く利用された。

また、水環境はエネルギー源として利用されてきたことも知られている。甲津原地区では、かつて水の力を利用して米・蕎麦をついた「唐臼小屋」が残り、伊吹地区では、大正年間に建造された直径6mの水車で菜種油を製造、能登瀬地区では小麦を製粉していた。伊吹地区では、獣害対策用の電気柵に利用する電力を谷水に設置した水力発電機でまかなっており、醒ヶ井地域では湧水を使って誘蛾灯・街灯、飼料配合機・冷蔵庫の電力を発電していた。さらに天野川下流域の多下良地区の白噴井戸はカナケの水と共にメタンガスが噴出しており、これを燃料として炊事に利用していたともいう。さらには、上板並地区に湧き出る「ハゲ尻の水」は、皮膚病に効く冷泉として知られている。

このように、従来からいわれてきた湧水の多様な機能のうち、「地場産業」に綿・絹生産、染色、肥料採集が加わり、「動力源」として米粉、蕎麦粉、小麦粉、菜種油の製造にもかかわることが明らかになった。また、生活・生業に使う小規模な「水力発電」や水とともに発生するメタンガスの「燃料利用」は、従来は全く知られていなかったことであるし、「治療」効果のある冷泉も報告された。こうした地域を定めた総合的な保全への取り組みを知ることによって、これまで知らなかった水の役割・機能を発見することができた例である。

米原市内に限っても、まだこれ以上の多様な機能を持った「水」が存在するに違いない。各地域の皆さんからの情報を待っている状態である。

## 3. 水環境の保全と利用

泉神社湧水からみた米原市大清水の場合、簡易水道の普及と農業用溜池の整備により、集落全体の農業用水と生活用水が確保されるようになったのは1980年代になってからのことである。そして、結果的にはこれと時期を合わせるようにして、生活環境における水資源の保存・継承が国の施策として図られるようになり、昭和60年(1985年)、「名水百選」の選定が全国的に行われた。

当時、滋賀県で2箇所が選定されたうちのひとつが泉神社湧水であり、このことをきっかけにこの集落には多くの人が水を求めてやってきた。ある程度の作業や負担は生じたものの、大清水区・湧水保存会・老人会・日赤奉仕団・神社氏子など、大清水区を中心にしたいくつもの組織がその管理にかかわったため、今日まで広く多くの人がこの湧水の恩恵を受けることができている。

最近の泉神社湧水周辺の様子を見たくて、12年ぶりに今年の8月に訪ねてみた。「御神水・水源の森保全協力金」のお願いの看板と「いぶき葉草の湯」への案内が加わった以外はかつてと変わりなく、岐

阜・名古屋方面の方を中心に多くの方が水をもらいに来ていた。

最近では、大規模災害に備えた緊急時の井戸の有効性が叫べられ、滋賀県でもいろいろなレベルの自治体に対して呼びかけているが、なかなか広がりが見せない。

琵琶湖水系というその地理的・歴史的優位性に気づき、これらを味方につけて、今後は行政に頼らないで地域での幅広い水環境の記録と分析、保全と利用への道をみんなで切り拓いていきたい。

### 引用文献・資料等

- 環境庁水質保全局水質規制課 1985「名水百選」について(昭和60年3月28日)
- 環境省水・大気環境局水環境課 2008「平成の名水百選」について(平成20年6月5日)
- 環境省水・大気環境局上環境課地下水・地盤環境室 2010「湧水保全・復活ガイドライン」(平成22年3月)。
- 環境省ホームページ 2012

<http://www.cnv.go.jp/water/yusui/result/>

### 参考文献

- 滋賀県 1988『滋賀・湖国百選・水』滋賀県
- 米原市 2012『スローウオーターなくらしー未来へ受け継ぐ水源の里まいばらの水文化ー』米原市経済環境部環境保全課
- 用田政晴 2012「民具資料の整理ー考古民俗学的方法論の試みー」『民具研究』145号、日本民具学会
- 楊平・用田政晴 2010「名水百選認定と農村水環境の歴史的保全」『生活文化史』第58号、日本生活文化史学会



写真2 「御神水拝受所」近況



写真3 「御神水拝受所」追加された看板